



ヘーベルハウス  
2.5世帯ものがたり  
～第6話～

# 母の明るさと 妻の涙。

姉と嫁と姑は仲良くできるだろうか？

六十五歳の母が、また新しい趣味を始めた。育児もひと段落ついたころから、いろんなことにチャレンジしている母。書道、三味線、粘土細工、加圧トレーニング（！）、百人一首（!?!）、そして今度はベリーダンス。アクティブシニアを越え、アクロバティックシニアと言っても過言ではない。夕食の後、姉と僕たち家族に、腰を情熱的に動かすベリーダンス特有の振りを披露する母。そのデキてなさが絶妙なのだが、何となく笑ってはいけない空気だ。両親と姉、僕ら家族で暮らす「2.5世帯」。同居を始めたなら、こんなひと時が増えるのだろうか。「恵さん、ポイントはこの動きね、ココー!」。この動きがどの動きを指すのかさっぱりわからない。そして、ココー!というときブルンと揺れるお腹が愛らしい。「なるほど〜」感心しながらも唇を震わせる妻。「見て見て、ココー!」「もう一回ね、ココー!」執拗な母。由紀子姉さんがついに噴き出した。「ぶっ!母さん勘弁してよ笑。恵さん、笑っていいんだからね、ココー!笑」「・・・プッ、アハハハ!すみません、アハハハ!」安心したように、涙を流して笑い出す妻。せきを切ったように笑い声につつまれる家族。「何々みんな〜?」「母さん、恵さんはただでさえ気を遣う立場なんだから、困らせることしちゃダメよ笑。そんなことじゃ同居できないわよ〜」姉もわかっている。母の心憎いまでの妻への優しさを。嫁姑。そこに第三者の姉。姉は、ときに二人の間をツッコんだり、ときに相談相手になったり。ちょっと都合よく考えすぎだけど、そんないいバランスで暮らしてほしい。互いに独立しながらも、シェアする時間を快適に楽しめる。「ヘーベルハウスの2.5世帯住宅」ならできるはずなんだ。「ココー!」母のレクチャーは続く。踊りのポイントは迷宮入りだが、笑いのたえない夜だった。

（明日予定の広告紙面に）つづく

## 2.5世帯住宅で、暮らしませんか？

考えよう。答はある。

ヘーベルハウス



0120-917-555

電話受付時間 / 10:00～17:00 (火曜・水曜定休日)  
※地域により留守番電話になっている場合がございます。

<http://www.asahi-kasei.co.jp/hebel/>

【個人情報の利用目的について】お問合わせ・資料請求でいただいた個人情報は ●カタログ・資料の送付、見学会・セミナー等の各種イベント等のご案内 ●建築計画の提案、図面・書類等の作成のための各種調査・サービスのご提供 ●商品やサービス等の開発・改善のためのアンケート調査の実施等に利用させていただきます場合があります。詳しくは「プライバシーポリシー」として弊社ホームページにて公表しています。